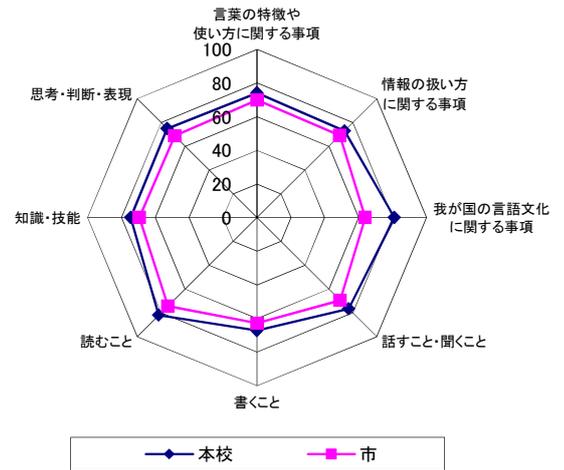


# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	73.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	76.6	69.5	71.5
	書くこと	67.1	62.8	67.1
	読むこと	82.0	74.4	73.7
観点別	知識・技能	74.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	75.0	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

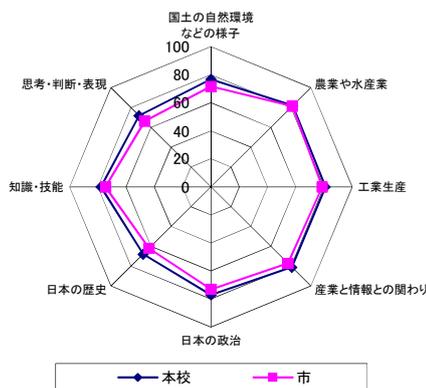
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市と比較して4ポイントほど高い。</p> <p>○第6学年配当漢字は、市の平均とほぼ同じ正答率であり、基本的な漢字の読み書きについては定着してきている。</p> <p>●既習漢字については定着していないものもある。</p> <p>●敬語の問題では、正答率が市の平均を下回った。</p>	<p>・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習、既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努めていく。また、個人用パソコンやAIDリルも活用して習熟を図る。</p> <p>・習った漢字を日常的に使うように指導していく。</p> <p>・敬語については、敬語を使う相手が誰なのかを明確にする学習を繰り返していき、尊敬語と謙譲語の区別ができるようにしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市と比較して4ポイントほど高い。</p> <p>○資料から必要な言葉を探る問題では、適切な言葉を書き出すことができた。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章をまとめる問題では、情報を整理したり、組み合わせたりして文章をまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・資料から必要な情報を抜き取り活用する活動を様々な教科で取り入れることで、情報の取捨選択をし、条件に合わせてまとめる能力を身に付けられるよう、継続して指導していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市と比較して18ポイント高い。</p> <p>○和語・漢語・外来語について理解している。</p>	<p>・漢字辞典などを活用し、語句の由来について興味・関心を深められるように指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市と比較して7ポイントほど高い。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて、記述することがおこなわれた。</p> <p>●話の内容の捉え方が十分でない解答も見られた。</p>	<p>・話の要点が何かを捉えられるよう、目的意識をもって話を聞くことの大切さを継続して指導していく。</p> <p>・国語だけでなく、他の教科や学級活動など様々な場面で、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う機会を積極的に設けて指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市と比較して4ポイントほど高い。</p> <p>○事実を基に、指定された長さで自分の意見を明確にして書くことができていく。</p> <p>●条件に沿って、理由を述べながら自分の意見をまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・資料から必要な情報を読み取り、その内容を自分の言葉で要約する活動を行う。また、読み取った内容から考えたことを表現する活動を、様々な教科で取り入れていく。</p> <p>・作文の学習では、字数や段落構成の条件を与えながら、書く練習を取り入れていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市と比較して7ポイントほど高い。</p> <p>○物語文の読み取りについて、どの問題においても市の平均を上回っている。</p> <p>●説明文の読み取りにおいては、市の平均を上回っているが、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・説明文の読解では、文章全体の構成を考える活動をしっかり行い、筆者の考えの中心がどこかを的確に捉えられるように継続して指導していく。</p> <p>・引き続き、読書活動を励行し、読解力を高めるようにしていく。</p>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.8	71.6	67.5
	農業や水産業	82.0	81.5	82.1
	工業生産	81.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	81.1	77.2	68.2
	日本の政治	77.0	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	67.9	62.0	65.8
	知識・技能	77.8	74.6	74.5
	思考・判断・表現	71.9	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

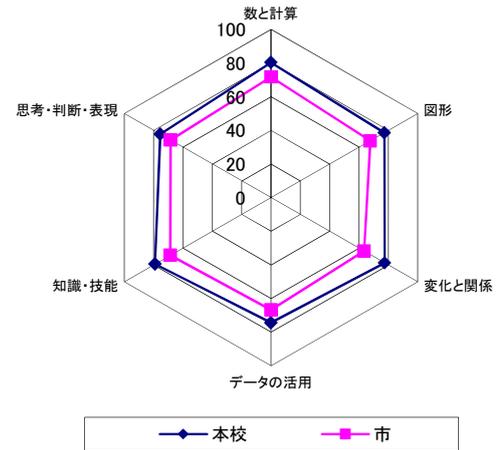
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○日本の周辺諸国の場所について答える問題の正答率が、市の平均正答率を大きく上回っている。 ○資料から森林の働きを読み取り、資料中の言葉を使って説明する問題の正答率が、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●自然災害の設備に関する問題の正答率が低い。津波や防潮堤については、身近ではないため理解が低かったと考えられる。 ●河川の名称を答える問題の正答率が市の正答率を上回ったものの低い。白地図にまとめたり、折に触れて復習を行う必要があると考えられる。	・津波や防潮堤については、身近ではないため、デジタル教材や図書資料などを用いて理解が深められるようにする。 ・白地図にまとめたり、機会を捉えて復習を行う。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を若干上回っている。 ○都道府県の位置と農産物の産地の理解に関する問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●カントリーエレベーターについての問題の正答率が、低い。身近ではないため、理解が低かったと考えられる。	・動画や資料を積極的に活用し、理解が深まるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○日本の輸出品の変化の資料を読み取る問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●自動車工場の作業工程についての正答率が市より低い。作業内容を具体的にイメージできるように、図表や動画資料をさらに活用していくことが考えられる。 ●出荷の工夫を捉え、表現する問題は、市の平均を上回ったものの、正答率は低い。文字資料と図表を関連させて考えることが苦手であると考えられる。	・作業内容を具体的にイメージできるように、図表や動画資料をさらに活用していく。 ・ノートなどにまとめる活動を通して、理解を深められるようにする。 ・文字資料と図表を関連させてまとめる活動を、授業中に意図的に取り入れる。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○資料に着目して、情報システムのメリットを読み取る問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●メディアの特徴を捉える問題の正答率が、市の平均を下回っている。新聞について触れる機会が低下していると考えられる。	・学校で新聞の活用を図り、メディアの特徴についての理解を深める。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○日本国憲法について問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ○税金について問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●国の政治の仕組みを答える問題の正答率が、市の正答率を上回ったものの低い。文字資料と図表を関連させて考えることが苦手であると考えられる。	・文字資料と図表を関連させてまとめる活動を、授業中に意図的に取り入れる。 ・知識と資料を関連させて、自分の言葉でまとめる活動を意図的に授業に取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を上回っているが、正答率が7割を下回っている。 ○大和朝廷についての理解を問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ○鎌倉幕府の場所について問う問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ●奈良時代の資料に着目して答える問題の正答率が、市の正答率を上回ったものの低い。文字資料と図表を関連させて自分の言葉で表現することが苦手であると考えられる。 ●秀吉の政策について問う問題の正答率が、市の平均を下回っている。語句の理解に留まらず、行った意図の理解が低いことが考えられる。	・文字資料と図表を関連させてまとめる活動を、授業中に意図的に取り入れる。 ・知識と資料を関連させて、自分の言葉でまとめる活動を意図的に授業に取り入れる。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.3	71.8	76.2
	図形	77.3	67.7	67.8
	変化と関係	77.5	63.4	62.7
	データの活用	74.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	79.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	75.4	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

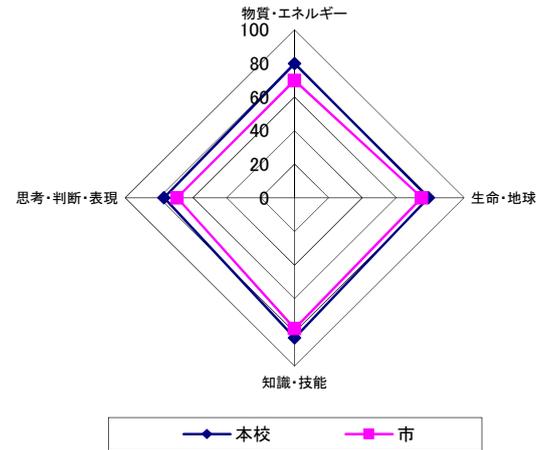
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○分数のかけ算・割り算において、平均正答率が97.3%と市の平均を上回っており、基本的な分数の計算の仕方が身に付いていると考えられる。</p> <p>●分数の除法の文章問題について、市の平均正答率は上回っているが、正答率が56.8%と低い。文章に合った式を考える力が十分ではないことが考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き基本的な計算の力を身に付けられるよう、朝の学習、少人数指導等の時間を活用して、継続して指導していく。</li> <li>図で表したり、説明したりする活動を繰り返し行い、数量関係を正しく図や式に表す力を育てる。</li> <li>下学年から問題を図で表したり、説明したりする活動を十分にに行い、積み重ねていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、平均正答率が91.9%と市の平均を上回っている。</p> <p>●線対称の図形について、対称の軸が何本あるか求める問題について、市や全国よりも高いものの、正答率は64.9%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題に答えるときは、文章を読むだけでなく、自ら必要な図形を描いたり、補助線を引いたりできるように普段の授業の中で指導していく。</li> <li>教科書に出てくる問題以外にも、様々な出題形式の問題に触れさせ、活用する力を育てる。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○混みぐあいを考える問題では、平均正答率が89.2%と市の平均を上回っている。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題では、市や全国よりは高いものの、正答率は67.6%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をじっくり読み、問題の意図を正しく理解して課題に取り組もうとする力を育てていく。</li> <li>問題の示す値が、基準量・比較量・割合のどれにあたるのかを正しく理解できるよう、意識付けする。</li> <li>答えを見積もるなど、見通しを立てて問題に取り組む習慣を身に付けさせる。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○平均を求める問題では、正答率が91.9%と市の平均を上回っている。</p> <p>●ドットプロットから、中央値を読み取る問題では、市や全国よりも高いものの、正答率は64.9%である。</p> <p>●帯グラフを読み取って、説明する問題では、市や全国よりも高いものの、正答率は45.9%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き慣れない用語が多数出てくるため、それぞれの用語について、丁寧に確認する。</li> <li>社会科等其他教科の学習資料や新聞などを活用して繰り返し確認することで理解を深め、活用する力を育てる。</li> <li>日常生活と関連させながら、データの活用の有用性や必要性についても理解を深めるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	79.9	69.9	67.8
	生命・地球	78.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	83.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	77.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は、市の平均を大幅に上回っている。 ●教科書の内容については理解しているが、生活に結びつけた問題に関してやや正答率が低かった。	・実験を通して、基礎的知識の定着が図られているので、今後も児童たちが身近な自然事象を体感できるように実験機会をしっかりと確保していく。 ・身の回りの物で実用例を挙げて、既習事項と結び付けて考えを深められるようにする。
生命・地球	○平均正答率は、市の平均を上回っている。 ●食物連鎖についてはよく理解できているが、条件を踏まえて記述することがやや苦手である。	・実験結果から考察する際に、既習事項を活用したり、習った言葉を使って表現したりする意識をもたせるように繰り返し指導していく。 ・児童の理解の充実を図るために観察、実験などを行うとともに、映像や模型、ICT機器を活用していく。

## 宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	・3年生以上への質問で、授業が分かると思った割合が4年生・5年生・6年生で市の平均よりも高かった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー&振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	・家庭学習の時間について、どの学年も市の目標時間を上回る時間取り組んでいる児童が多かった。 ・1～2年生の質問「宿題はきちんとやっていますか」、3～6年生の質問「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合が、6学年中4学年で市の平均よりも高くなった。 ・3年生以上への質問「自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、どの学年も市の平均より高くなった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	・「グループなどでの話し合いに自分から積極的に参加していますか」の質問に対する肯定割合は6学年中4学年で市の平均を上回った。とくに4年生が91.7%と高かった。 ・3年生以上の質問「自分の考えを理由・根拠をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、全学年で市の平均を上回った。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・引き続き、分かる授業を心掛け、対話的な活動を積極的に授業に取り入れながら、主体的に学ぶ児童の育成を図っていく。
- ・家庭学習については、強化週間等の取組を継続しながら、家庭とも連携し、内容の充実にも取り組んでいく。
- ・話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習活動を工夫し、ものごとをいろいろな視点や立場から考える力を育てていく。
- ・基礎的・基本的な学習内容については比較的よく身に付いているが、発展的・応用的な問題に対応する力が弱いので、各教科の各単元におけるまとめの時間等で、発展的な応用問題を積極的に取り上げたり、習熟度別学習の機会を生かして、児童が意欲的に発展的な問題に取り組めるような機会を増やしたりしていく。また、記述問題に対応できる力が身に付くよう、まとめやふりかえりの場面等で日頃から意識させ、思考力・表現力の育成に努めていく。